

4月の行事報告 April 壮年会法座「阿弥陀経解説6回目報告」



4月3日(日) 花まつり 午前10時半 / 壮年会法座 午後1時半

あまたある〈正義〉の中で、六方諸仏が認めていること

前回までの解説では、阿弥陀仏の極楽浄土の莊嚴を説き、次にその浄土に往生するために阿弥陀仏の名号をお唱えすることを勧めるところまででした。今回の内容は、六方世界の諸仏がこの説を讃嘆・証誠(誠であることを証する)して信ずることを勧めていること、極楽に生まれるように願いを起すべきであることを説き、仏陀にとってこの乱れた世界の人々にこれらのことを信じてもらうことは、とても難解な事だったと話す個所です。

六方諸仏の勧めでは、六方のみでなく、八方・十方の話を。また、たとえば仏の徳を表す出広長舌相、仏の頭頂部にある肉の盛り上がり頂髻相、眉間に右巻きの白毛が生えて光を放つ白毫相など、仏の身に備わっている三十二相の優れた特徴について。

また、沢山の仏に護られている阿弥陀経を信じなさいと書かれているが、なぜ諸仏が必要かということにおいては、人それぞれ異なる〈正義〉があり、ウクライナ侵攻におけるプーチンの〈正義〉、また「新選組」讃歌のドラマと八重の桜の会津藩における「新選組」のとらえ方の相違を引用しながら、あまたある〈正義〉の中で、多くの諸仏が認めていることの必要性を話されました。

釈尊の問いかけの個所では、諸仏のはたらきにおける護念の「護」の意味を親鸞聖人の「一念多念文意」から説明され、俗信や迷信については、いまでも四十九日の法要が、命日から三か月に渡ってしまうことを心配する人がいると話されました。

諸仏のはたらきのところでは、勸信・証信・護念・讃嘆の四つから、私に念仏を教えてくれた人が仏様ですと説明され、阿弥陀もそうであるし、阿弥陀の働きもしかりと、はたらきについて説明されました。はたらきという法の核心に迫るところと思われるが、小生にはまだよくわかりませんでしたので、今回はうまく報告できません。なお、次回からは蓮如上人の御文章について勉強することになりました。

(越田 修二郎記)



6月の行事報告 June 壮年会法座「御文章を味わう解説1回目報告」



「中原寺殿の十二人」 6月12日(日)午後1時

6月12日開催の壮年会法座は、梅雨の晴れ間に恵まれ、新緑が輝くような気力充実の12名が参集しました。

本堂での真宗宗歌斉唱、お勤めは正信念仏偈。聞法会館へ席を移しての勉強会です。

今回から蓮如上人の『御文章』を学びます。教材は『御文章 ひらがな版』です。

住職のご都合で今回は前住職が「御文章を味わう」と題した資料をご用意下さり、御文章の成り立ちや概要を解説されました。蓮如上人は第八代門主で、布教に大きな足跡を残され浄土真宗の中興の祖とされていますが、親鸞聖人のみ教えを簡潔に書いた門徒宛のお手紙、御文章を沢山残されました。この御文章が多くの人の前で朗々と代読されたり、門徒から門徒へ書き写されたりして、布教に大きな役割を果たしたとのこと。御文章は3百通近くになり、ご子息の第九代実如上人がその内の八十通を編集・抽出し五帖にまとめられました。

御文章の教えの要は、①信心正因②称名報恩です。

①については、「信心をもって本とせられ候…一心に弥陀に帰命すれば…往生は治定せしめたまう」とあり、②については「…称名念仏は如来わが往生を定めたまいし御恩報尽の念仏とこころうべきなり」(御文章五帖第十通/教材 11頁)とあります。要するに、まずは弥陀の本願を信じて。これが根本。

しかしこれは心の内のこと。称名念仏の行動によって、信じる心を揺るぎないものとする、と言うことだと思いました。

御文章は、比較的易く、現代文での説明もあり、次回以降が楽しみです。最後に児島さんから“研究発表”がありました。本願力(本願を信じしめる力)と煩惱との関係を時間を横軸に取ったグラフにして、門徒の成長過程を表現するユニークかつ面白い分析でした。

今年のNHK大河ドラマは、「鎌倉殿の十三人」。本日は「中原寺殿の十二人」、前住職の「仏教者としての真の生き方」の問題提起による、各自の活発な意見発表があり、最後まで元氣旺盛な十二人でした。

(平 邦雄 記)

感話 シリーズ-33

佐々木閑先生の春季彼岸会法要、ご法話のご縁から……
コロナ禍を転じて福となす YouTubeで学ぶ「釈迦のみ教え」
令和4年3月21日(祝)午後1時半



私が佐々木閑先生のお話しをお聞きしたご縁は中原寺文化講演会が最初で、2年前の中原寺秋季彼岸会法要が2回目、今回が3回目です。前はコロナ禍が一時落ち着いたタイミングで、あれからオミクロン株等に変異して長期化傾向の時代背景から、WEBを活用する法話、講演、授業等が数多くなりました。

佐々木先生もYouTubeチャンネルを立ち上げられ丁度2年で、私達も仏教講義を聞く機会に恵まれました。WEBを通じて親しみを感じていましたので、今回の中原寺でのお話しは一層興味深く拝聴できました。今回の法話の具体的内容については、多くの壮年会員と一緒に拝聴していますので、「壮年会だより」への投稿は、私自身が佐々木先生の仏教に興味、関心を持ったYouTubeチャンネルのご紹介したいと思います。

○YouTubeから「佐々木閑」で検索するとオリジナルチャンネルがでます。

YouTubeを使った仏教講義で、花園大学学生及び社会人聴講生向けです。1回の講義時間15分～20分位、無料です。(チャンネル登録者数9850人…365本の動画がUP中 5月1日現在)

○講義タイトルは「仏教哲学の世界観」第1～9シリーズ

第1「総論」24回、第2「ブッダの生涯」30回、第3「ブッダの最期」24回、第4「ブッダの教え」24回、第5「ブッダの亡き後」20回、第6「阿含経の教え」41回、第7「仏教再発見の旅」141回、第8「出家的に生きるために」29回、第9「阿含経の教え・その2」現在進行中。

全体を通して徐々に学生に戻ったような新鮮な気持ちで聴講ができました。釈迦の教えの原始仏教から中国大陸を経由した大乘仏教・日本仏教へと歴史の変遷を学べたように思います。

又、講義だけでなく番外編としてWEB上で「秋の遠足」やボートの船上から「花見」をしながらの楽しい授業もありました。お盆の里帰りでは、福井県・称名寺の自坊(真宗高田派・先生は28代住職)から放映もありました。この地域で有名な一向一揆では、体制側で柴田勝家から貰ったという、歴史的な古文書も見せて頂きました。

○先生の人柄が良く分かる下記サイトがあります。

円覚寺YouTubeチャンネル…花園大学総長の横田南嶺管長(臨濟宗大本山円覚寺派)が毎日配信する仏教界の超人気サイト。「お寺で対談・佐々木閑先生」6回のシリーズです。この対談に出演されて、ご自身の生い立ちやお釈迦様に惚れ込む仏教学者への経緯が、赤裸々に語られています(上記チャンネルの検索で、今でもご覧になれます)。先生は沢山の著書を出されていますが、対談の中で管長が先生の著書『日々是修行』(ちくま新書)から〈自死〉について読者の反応紹介で、先生が涙する場面があり、人間味の深い一面を拝見させて頂きました。



○著書『日々是修行』第40話・自殺は悪でない…から一部抜粋

「人は自殺などすべきでないし、他者の自殺を見ごしにすべきでもない。…中略…自殺は、本人にとっても、残された者にとっても、つらくて悲しくて残酷でやるせないものだが、そこには、罪悪も過失もない。弱さや愚かさもない。あるのは、一人の人の、やむにやまれぬ決断と、胸詰まる永遠の別れだけなのである。」

これからも続く、先生のYouTube授業を楽しみに、今後も学んで行こうと思っています。

南無阿弥陀仏 (入月 正 記)